平成22年度 特別会計決算

歳入　28億6,475万円
歳出　27億7,934万円

国民健康保険事業特別会計

国民健康保険は、皆さんが納める保険税で成り立っています。

平成22年度歳入決算の内訳では、保険税は全体の25％余りを占め、その他を国からの負担金（国庫支出金）や一般会計からの繰入金などで賄っています。保険税を期日内に納めていただくこと、そして一人ひとりが自分の健康と医療費に関心を持ち、医療費の節減に協力していただくことにより、健全な国民健康保険制度を運営することができます。

☆被保険者一人当たりの医療費は 295,243円
保険税は　88,549円

平成22年度、町の国民健康保険被保険者が病気やけがをしたときにかかった医療費の総額は10億6,228万円となり、前年度比3.4％増となっています。また、被保険者一人当たりに換算すると295,243円となり、この額は、前年度に比べ4.1％増加しています。

国民健康保険診療所事業特別会計

平成22年度の寄診療所では190日間で延べ9,788人を診療しました。そのうち、後期高齢者医療被保険者が約45％を占めています。また、歳入決算は前年度比2.6％の増となり、その主なものは診療収入です。歳出決算は前年度比0.3％の減となり、その主なものは医薬品の購入です。

老人保健特別会計

平成20年４月の後期高齢者医療制度の創設により、老人保健制度時にかかる医療費の精算を行っていましたが、経過措置期間が満了となったため、平成22年度末で老人保健特別会計は廃止となりました。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、75歳以上の方と65歳から74歳で一定の障害があると認定された方が対象です。保険料額の決定や医療の給付などは県下33市町村で組織する神奈川県後期高齢者医療広域連合が行っていますが、申請や相談などの窓口事務や保険料の収納は町が行っています。

医療費は年々増えており、高齢化に伴い現役世代の負担も増えています。日ごろからの健康づくりを心がけ、医療費の節減に協力していただくことが、健全な財政運営につながります。

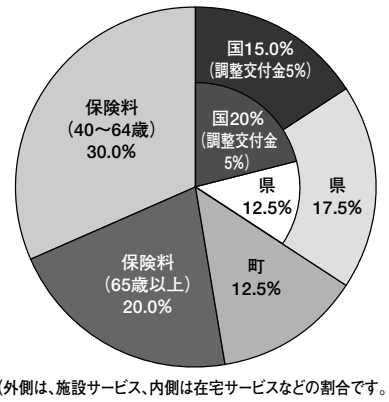
介護保険事業特別会計

平成22年度の決算で実質収支は3,535万円となりました。

介護給付費総額は、昨年度決算時と比較して4.9％減の６億4,311万円となりました。

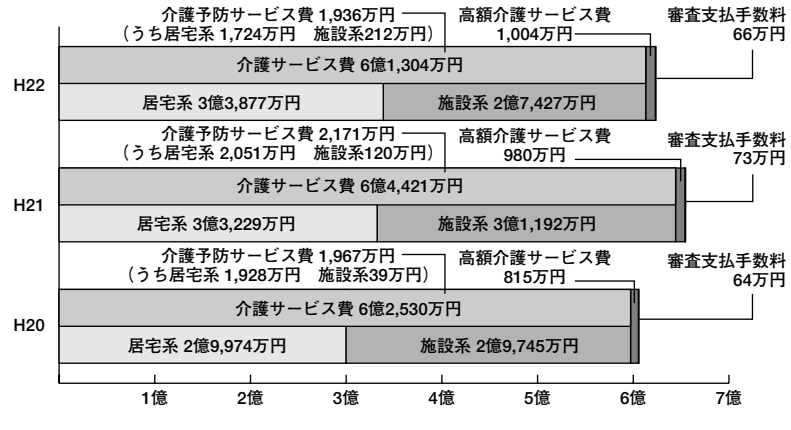
介護保険は、皆さんが利用したサービスの費用を国・県・町や被保険者の保険料から、それぞれが法律により定められた割合に応じて負担される仕組みとなっています。サービス利用が増えると保険料による負担も増えるため、３年ごとにサービス利用量と保険料の状況を見直し、保険料の改定を行っています。

介護保険給付費用の負担割合



（外側は、施設サービス、内側は在宅サービスなどの割合です。）

介護保険サービス利用状況



特別会計等の決算の状況　（単位：万円）

会計区分	歳　入	前年度比較	歳　出	前年度比較
国民健康保険事業	126,169	4,498	125,606	5,286
国民健康保険診療所事業	9,478	237	8,774	△22
老人保健	813	△58	95	12
後期高齢者医療	12,733	△839	12,355	△884
上水道事業会計	18,519	1,994	17,290	1,306
寄簡易水道事業	3,408	△7,244	2,738	△6,985
下水道事業	36,685	△2,427	36,148	△1,659
介護保険	75,624	△2,836	72,089	△4,407
用地取得	3,046	1,749	2,840	2,840
合　計	286,475	―――	277,934	―――

※１万円未満は四捨五入しているので、合計値が一致しない場合があります。

下水道事業特別会計

公共下水道事業は、水質保全と生活環境の向上のため、昭和49年に都市計画決定をされ、昭和55年に下水道法の事業認可を受けてスタートしました。

平成22年度末、事業認可区域は220.3ヘクタールで整備済みは197.4ヘクタール(89.6％)、うち88.7％の方が下水道を使用しています。

歳入は、6.2％の減で、下水道使用料は前年度並となっています。

歳出のうち、維持管理費用は、酒匂管理センター（処理場）への負担金として5,140万円を支払い、これらには、下水道使用料を充てています。また、平成22年度は中丸地区に汚水管の敷設工事を行いました。

上水道事業会計

収益的収入と支出 ※1

収入　1億3,608万円　　支出　1億2,398万円

資本的収入と支出 ※2

収入　400万円　　支出　4,890万円

※１　水道料金などを主な収入とし、対する支出は、動力費、機械や建物などの減価償却費、職員の人件費、企業債の利子支払いなどです。

※２　主な収入は負担金などで、対する支出は、建設改良費や企業債の元金償還などです。なお、収入の不足額については、損益勘定留保資金等で補てんしています。

上水道事業は、9,389人の住民(給水人口)に対し、良質な水を安定的に供給するため、施設の整備、維持管理を行い、整備拡充に努めました。

平成22年度の給水収益（水道使用料）は前年度に引き続き、節水などの影響で、0.5％の減となっています。収益全体では、前年度対比2.2％の増となり、これは水道加入負担金が増加したためです。

支出は、前年度対比4.1％の減となり、732万余円の黒字となりました。平成22年度決算での経常費用から求めた給水原価は、１m^3当たり100.9円で、水を供給したときの収入額を算出した供給単価は１m^3当たり89.4円になりました。

寄簡易水道事業特別会計

寄地区（湯の沢を除く）の水道施設の整備拡充や維持管理を行い、住民に良質な水を安定して供給するための事業です。

給水収益は前年度比0.1％の減となっています。平成22年度決算での経常費用から割り出す給水原価は１m^3当たり106.7円で、水を供給したときの収入額を算出した供給単価は82.5円になりました。

用地取得特別会計

平成22年度では、警察署建替えの用地を確保するため、隣接地の不動産鑑定や建物等の物件損失補償契約を締結しました。決算額は、契約金の一部を支出しましたので、前年度に比較し大幅な増となりました。